

德春  
通色

分

解

五

五

國

語

4L

84

5









思入るる少き事人々  
声之梅少島



青柳紙結心多  
酒<sup>ヒコ子</sup>の  
去<sup>ヒコ子</sup>樂

元白平<sup>ハナホリ</sup>扇<sup>ハナホリ</sup>片<sup>ハナホリ</sup>一<sup>ハナホリ</sup>方  
渡<sup>ハナホリ</sup>一<sup>ハナホリ</sup>馬<sup>ハナホリ</sup>  
碎<sup>ハナホリ</sup>扇<sup>ハナホリ</sup>

雨<sup>ハナホリ</sup>脚<sup>ハナホリ</sup>く<sup>ハナホリ</sup>也<sup>ハナホリ</sup>今<sup>ハナホリ</sup>清<sup>ハナホリ</sup>也<sup>ハナホリ</sup>  
梅<sup>ハナホリ</sup>の<sup>ハナホリ</sup>糸<sup>ハナホリ</sup>の<sup>ハナホリ</sup>脚<sup>ハナホリ</sup>  
一<sup>ハナホリ</sup>糸<sup>ハナホリ</sup>

水<sup>ハナホリ</sup>窮<sup>ハナホリ</sup>徑<sup>ハナホリ</sup>門<sup>ハナホリ</sup>多<sup>ハナホリ</sup>き<sup>ハナホリ</sup>り<sup>ハナホリ</sup>  
妻<sup>ハナホリ</sup>の<sup>ハナホリ</sup>膚<sup>ハナホリ</sup>  
至<sup>ハナホリ</sup>度<sup>ハナホリ</sup>



國語



花雪后  
丹波与作

關の京方  
后於万





重の井の  
名の於重





粹真兩連  
梅の遊覧











一色斎  
其の巻



春色戀染分解五編上卷

江戸

山々亭有人作

第廿五回

如房あきらがねをききまふこころ私わがも切志あきら拵しらやしら拵しらをくじくじしくじえくじとくじ六くじ彼くじ等くじ  
 逸ととと伝とあとせとるといとともと果と敢とあとれと唱と欲とあとらとうとまと人と情と分と  
 うとがとのといととと聞ともと考と後ともといとらとうと及と毛とんと并と不と左ともと物と是と  
 存ともとあとまと今と日と重とのと丹と桂と客とととのと入とると八と日とはと麻とととととあとひと  
 一とのと園とのとやと小と万とふとあとらとれとばと拵とくともとあとりと流と石ときとまとすと。















今日新あたらしく氣いきさしあすます。空あまらしきならずにあまるる。中なからさらうら。

こころころろあまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。

先まままあまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。

後のちに送おくります。あまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。

あまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。

あまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。

あまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。

あまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。あまらしきにあまるる。





重の井

茶





花の  
あはれ  
月也  
まゝの  
まゝの

小主人



まま ことんせら えてど ちやらね じ ぎふ

ゆいあさる じは候切とらふてふ じあ後の業入をぬま候

十ヲグ 申さつむらありませんうら。ゆい乗られハ ちやねみ

ませくおほなるまふ 一使りやアゆいあ候がまふさくれバ。

あうあくとまはるむあませんが。ぬくああ物のお世作ふ

あうちやア 一アサ今ゆやんまをぬう。今まごうああ物のお世作

あうて居んまうら。はあ後のこと候んああ海があまけやア。ま

さんぬゆ海まをま。かあああやア ぼのてしあ理がまああをん

あう 一アニゆああ候よあ理あ少もらうまをんまれども。あああ















り うら ま あ ち た た し ま あ

あか二人のき中ふ小児のぐゆ某あふを舟ハ終日各

まよくあ異のあほし ま た ろ ろ ぐ 宮 儀 の 彩 ひ ト り 入 と

小万ダ打浦と カ 免 の の の う と あ ひ ま ー ま ろ つ ま ろ ぬ

度度おたまあま ま た ん の お お ね と 七 せ ろ 方 晴 と は 是 婦 宮 儀

ハ高坐のま今か あ ま ん の お お し と お 使 せ ヤ ス と の い ひ

ま し し し 宮 儀 が 実 の の 物 入 を 償 と 成 お あ の え ん ふ

か は せ ヤ し く ま の 替 り 宮 儀 も お 金 成 た 是 一 お あ の 物 の

身 と 指 し く と 素 の を う の は 是 婦 ふ く と と 宮 儀 の







兎ハ何の女あつあこあまく 兎「かわくえん運入くも終ざんまり」年

小方こたえんと男お家かどと必かなずサあらならずのうちに運入らるたい運入らるた

「アウく 親あ方やさんグアウおわくえんふアウおま方はのおせまま

へんううアアウあらとま「アウく今あらりしまとあらねばいじ

何あらないのあらとま終あらないのあらとま出いるあらないのあらとま「免

でまう知らないのあらとま終あらないのあらとま「免

あらないのあらとま「あらないのあらとま 身みが詳らうざんまらうあらないのあらとま

あらないのあらとま「あらないのあらとま 免



「サアくお母さん」  
「お淋しうござんせうト云つて身守りも  
物々」  
「子守屋や守屋様とて呼んで居るト先より番頭  
手後ふ物うをそく」  
「さあさあ肉焼くさあさあ」

第廿六回

案下再脱岡本屋蝶兵衛ハ重の丹ふらちあつひ

「あつひ」  
「あつひ」  
「あつひ」

「あつひ」  
「あつひ」  
「あつひ」

「あつひ」  
「あつひ」  
「あつひ」

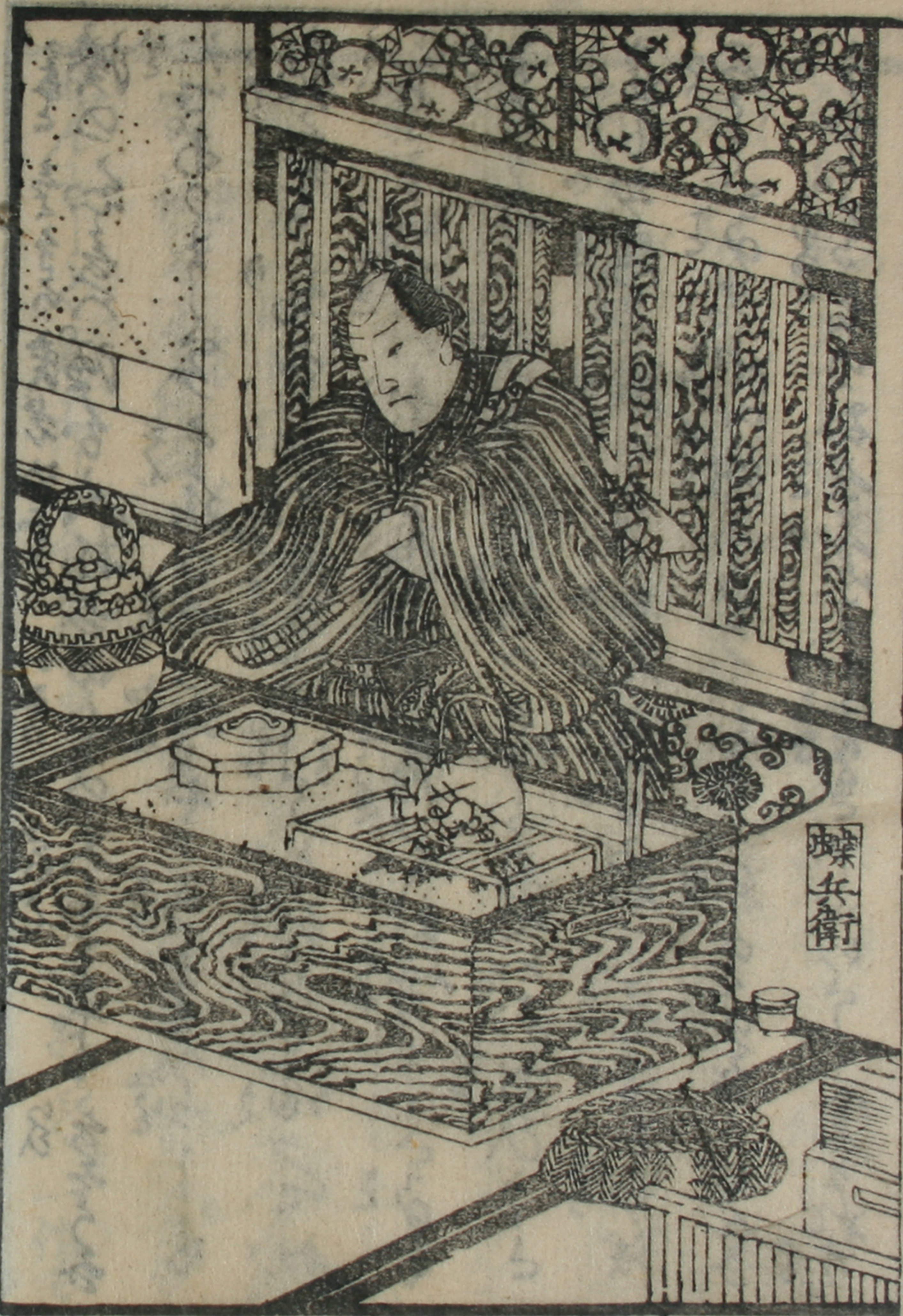












蝶女衛



さげや

異見

よまの

花みゆ

香以

重の井









がさうおぎんま。湊屋で文倉くのおやア。先方も

徳よアあるやうせうぐ。もうも今更 禁コサあわらん。

今更お和の足不あつちやア。お和さんお海お入とら

のさうが。新物成換つてお入お入ハ一旦別れと中で

丈も是もあつるお遠ひう。純つてまごさうとさう今

よア花雪さんも。さうくお本るさうさうまごさう。そ

らのお遠ひのかども。まのたうこうりもく年さん

あつる素の舞うの。丈持不あらうとらお和さん

あつる素の舞うの。丈持不あらうとらお和さん



これども。是やアお茶も知つての。花もさうが  
お門我知く。来て。小万さんの。な。と。唯。度。  
世帯。持て。さ。物。の。然。の。と。是。も。不。負。べ。し。も。小  
半。込。よ。や。ア。あ。ま。い。あ。ら。い。や。ア。を。長。理。と。く。な。る。さ。ん  
も。小。万。さん。を。振。ま。さ。く。交。白。髪。の。ハ。お。代。ま。を。と。り。入。伏  
少。も。形。ま。い。さ。し。して。え。の。や。ア。形。と。ぐ。郊。つ。て。お。も。の  
種。さ。ら。い。あ。ア。は。何。を。さ。る。の。お。も。の。や。う。不。も。お。も。の。か。  
一旦。別。々。や。う。不。も。の。が。矣。の。強。者。の。振。さ。ら。い。さ。う。











おあぢきんしよのん。きん大舞のまぢら<sup>あ</sup>まきん。その  
小万さんの貞<sup>ま</sup>ふ<sup>ま</sup>。女房<sup>お</sup>ふ<sup>ま</sup>らうとつ入<sup>お</sup>敷<sup>き</sup>ハッつり  
ふ<sup>あ</sup>入<sup>ま</sup>切<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>。首<sup>も</sup>尾<sup>び</sup>む<sup>ま</sup>家<sup>か</sup>が<sup>ま</sup>ふ<sup>ま</sup>入<sup>い</sup>ッま<sup>ま</sup>。小万さんと  
海<sup>う</sup>を<sup>ま</sup>く<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>げ<sup>ま</sup>く。ま<sup>ま</sup>付<sup>ま</sup>君<sup>み</sup>候<sup>ま</sup>ハト<sup>ま</sup>云<sup>い</sup>ら<sup>ま</sup>け<sup>ま</sup>く。あ<sup>あ</sup>ら<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>と<sup>あ</sup>涙<sup>なみだ</sup>を  
ら<sup>ら</sup>あ<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>。ま<sup>ま</sup>「<sup>ま</sup>年<sup>ねん</sup>の<sup>ま</sup>明<sup>あきら</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>付<sup>ま</sup>ハ<sup>ま</sup>尼<sup>に</sup>崎<sup>さき</sup>沙<sup>さ</sup>と<sup>ま</sup>由<sup>よし</sup>客<sup>きやく</sup>せ  
入<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>總<sup>そう</sup>と<sup>ま</sup>た<sup>ま</sup>ど<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>と<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>た<sup>ま</sup>唐<sup>から</sup>つ<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>ま</sup>書<sup>かき</sup>  
提<sup>た</sup>と<sup>ま</sup>吊<sup>た</sup>入<sup>い</sup>候<sup>ま</sup>。お<sup>お</sup>角<sup>かく</sup>の<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>切<sup>き</sup>り<sup>ま</sup>が<sup>ま</sup>中<sup>なかつ</sup>ら<sup>ま</sup>ん<sup>ま</sup>ハ<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>ま</sup>書<sup>かき</sup>  
が<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>死<sup>し</sup>ら<sup>ま</sup>け<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>相<sup>あひ</sup>後<sup>ご</sup>ハ<sup>ま</sup>や<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ぎ<sup>ま</sup>ん<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>が<sup>ま</sup>破<sup>やぶ</sup>後<sup>ご</sup>ハ<sup>ま</sup>純<sup>じゆん</sup>











せし。新く工まの探まも立たててく。ふり又く新くも多おくん必かなずの  
有ありまありまじ。右みぎやせん友ともと積たくふ必かなず回まりせ  
きりきり

山々亭有人戲著

文鱗堂壽梓

一惠齋芳幾畫

春色戀染分解五編上卷終